

m-ECT施行症例の続報(隔年4回目)と この8年間の総括

五稜会病院

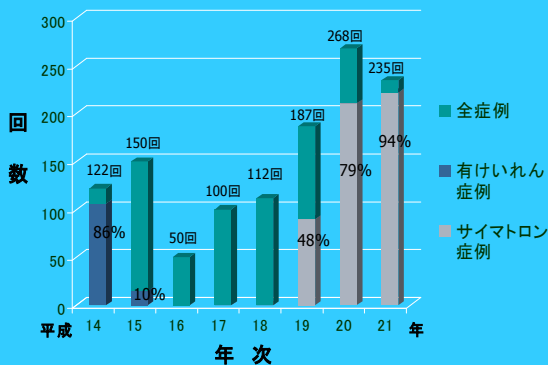
古根 高・中島公博・木川昌康・阿部多樹夫
富永英俊・鈴木健史・坂岡ウメ子・千丈雅徳

平成22年7月4日
第117回北海道精神神経学会

当院でのm-ECTの変遷

- 平成12年10月に初めてm-ECT施行
- 平成15年6月を最後に有けいれんECTを終了
- 平成19年2月から静脈麻酔薬にプロポフォール導入
・・・けいれん抑制作用がサイアミラールより強く、
現在は第二選択薬に
- 平成19年4月からパルス波(サイマトロン)刺激を導入
・・・従来のサイン波(木箱)刺激は第二選択に
- 平成19年6月からECTフローシート作成による各症例ごとの術前チェック・評価から実施記録・術後評価までを一元管理

m-ECT施行回数の年次推移



この2年間の施行症例概要

- 期間:平成20年4月～平成22年3月
- 施行患者総数:52名(平均年齢:47.6歳)
- 統合失調症圏(F2)34名、気分障害圏(F3)15名
その他(F4)3名
- うち11名は再燃を繰り返し、重複して施行
・・・そのうち2名は寛解期が短いため多重回に及ぶ
- のべ71症例に関して検討
- 各症例、1～3クール(1クール、施行回数5回)
- 全症例に重い合併症や副作用を認めず

この2年間の施行症例状態像

前々回(平成18年)・前回(平成20年)報告と比較して

m-ECT施行症例状態像	平成18年報告	平成20年報告	この2年間
幻覚妄想状態	7例(18%)	18例(32%)	31例(44%)
緊張病・昏迷状態	15例(39%)	20例(35%)	24例(34%)
抑うつ状態	15例(39%)	16例(28%)	12例(18%)
躁状態	1例(3%)	2例(4%)	3例(4%)
その他	—	1例(2%)	1例(1%)
全症例	38例	57例	71例

この2年間の効果判定(有効症例)

前々回(平成18年)・前回(平成20年)報告と比較して

m-ECT施行症例状態像	平成18年報告	平成20年報告	この2年間
幻覚妄想状態	7例/7例中(100%)	14例/18例中(78%)	18例/31例中(58%)
緊張病・昏迷状態	15例/15例中(100%)	19例/20例中(95%)	22例/24例中(92%)
抑うつ状態	12例/15例中(80%)	13例/16例中(80%)	10例/12例中(83%)
躁状態	0例/1例中(0%)	2例/2例中(100%)	3例/3例中(100%)
その他	—	0例/1例中(0%)	1例/1例中(100%)
全症例	34例/38例中(89%)	48例/57例中(84%)	54例/71例中(76%)

当院でのm-ECT施行症例の特徴・傾向

- 症例は増加傾向にあるが、幻覚妄想状態の症例増加が顕著で、抑うつ状態が相対的に減少傾向
- 他院の報告に比べ、抑うつ状態の症例が少ない
- 全体の有効率が80%を切る減少傾向にあり、特に幻覚妄想状態の有効率低下が顕著で60%以下に低迷
- 抑うつ状態の有効率は80%前後で安定し、緊張病・昏迷・躁状態の有効率は90%以上に達する
- 薬剤抵抗性でm-ECT著効だが寛解期が短くて再燃を繰り返す2名(平成20年報告)は、総施行回数がそれぞれ50回前後以上に及び、今後も増える可能性
- この8年全期間(総施行回数1224回)にわたって、重い合併症や副作用を来した症例は全くなし

この2年間の有効例における 施行前自己状態像の記憶(施行後に確認)

m-ECT施行症例 状態像	覚えていない or 曖昧	覚えている
幻覚妄想状態、17例中	12例(71%)	5例(29%)
緊張病・昏迷状態、18例中	14例(78%)	4例(22%)
抑うつ状態、9例中	4例(44%)	5例(56%)
躁状態、2例中	2例(100%)	0例(0%)
その他、4例中	3例(75%)	1例(25%)
確認できた全50例中	35例(70%)	15例(30%)

考 察

- m-ECT施行症例における幻覚妄想状態の増加に反してその有効性の低下を考えると、幻覚妄想状態での適応を厳格にして有効性の改善を図る必要がある
- 抑うつ状態の有効性を考えると、治療の選択肢としてm-ECTの重要性を再認識するとともに、その症例の拡大が望まれる
- m-ECT有効例の寛解期が短いことがあり、特にm-ECTに依存的で多重回を重ねる症例に対する今後の対策が求められる
- m-ECT有効例の70%が施行前の自己状態像に関する記憶が曖昧であることがわかり、施行前は自己状態像を認知できる状態ではなかった、あるいは施行後に状態悪化時の記憶が想起できない、などの理由が考えられる

ま と め

- 当院では、m-ECTの公明性を確保するため、またその有効性を示すため、当学会に隔年でm-ECT施行症例を報告してきた
- 今回は、この2年間のm-ECT施行症例の概要とその有効性を報告した
- 更に、この8年間の変遷とその特徴・傾向をまとめ、今後の有効な治療法確立に向けての総括を行った。